

算命学中庸

【初年】 26回目

26回目の授業はこのページからです。

授業科目 【五行諸類考】

【初年】 26回目【五行諸類考】01

『自然界は五行で成り立っている』これは「五行説」の考え方であったわけです。

五行説 ⇒ 自然界は五行で成り立つ

自然界は（木火土金水）の五行で成り立っています。

自然界は五行で成り立っている。人間の肉体に五臓が備わっているし、指も五本ある。自然界に存在するものは、すべて五行に分類することができると思ったのです。

⇒ さまざまなものを五行に分類しました。

それを「^{ごぎょうしよるいこう}五行諸類考」といいます。

いくつかを取りだしてご説明します。

最初に、五常（ごじょう）とも、五行恩徳（ごぎょうおんとく）とも
いいますが、まずは『五常』からはいります。

五常（ごじょう）

仁（じん）

禮（れい）

信（しん）

義（ぎ）

智（ち）

🔍 つぎのページの【五行諸類考】を参照ください。

⇒ 【五行諸類考】 この表を参考にしてください。

五徳	五穀	五虫	五本能	五労	五合	五臓	五味	五常現	五常	五方位	五行
福	黍	鱗虫	守備	行	筋	肝臓	酸	青龍	仁	東	木
寿	稷	羽虫	伝達	視	血	心臓	苦	朱雀	禮	南	火
禄	稗	裸虫	魅力	座	肉	脾臓	甘	騰蛇	信	中央	土
官	秫	毛虫	攻撃	臥	脈	肺臓	辛	白虎	儀	西	金
印	粟	介虫	習得	立	骨	腎臓	鹹	玄武	智	北	水

【五行諸類考】

五常「仁・禮・信・義・智」は（木火土金水）の順番に並んでいます。五常の基になっているのは「五本能」です。

仁（じん） ⇒ 守備本能の正しい発揮の仕方（木性）

禮（れい） ⇒ 伝達本能 // （火性）

信（しん） ⇒ 魅力本能 // （土性）

義（ぎ） ⇒ 攻撃本能 // （金性）

智（ち） ⇒ 習得本能 // （水性）

ともいいます。

守備本能の正しい発揮の仕方を「仁」といいます。

あるいは「仁徳 じんとく」ともいいます。

伝達本能の正しい発揮の仕方を「禮」といいます。

あるいは「禮徳 れいとく」ともいいます。

魅力本能の正しい発揮の仕方を「信」といいます。

あるいは「信徳 しんとく」ともいいます。

攻撃本能の正しい発揮の仕方を「義」といいます。

あるいは「義徳 ぎとく」ともいいます。

習得本能の正しい発揮の仕方を「智」といいます。

あるいは「知徳 ちとく」ともいいます。

これらのすべてが備わっているのを、「美德 びとく」というふうにかえました。

仁——「い 医はじんじゅつ 仁術なり」といいますように、これは人間に備わっている守備本能、自分を守ろうとする本能を正しく発揮する姿を意味しているものなのです。

守備本能自体は、自分のことを守ろうとする本能ですが、自分さえ守れば、ほかの人はどうなってもよいのかといえば、もちろん、そんなことはないはずです。

自分が大切なら、おなじように自分の家族とか、友達とか、あるいは自分の住んでいる地域とか、国とか、そのようなものまで、思いやりをもって守ってあげなさい。それが人に備わっている守備本能の正しい発揮の仕方です。という意味なのです。

禮——^{れい}禮は昔の字です。^{いま}現在は「礼」を用いています。これは伝達本能の正しい発揮の仕方を意味しています。伝達本能は、相手になにかを伝えようとする本能です。自分の考えを伝えるときには、正しい伝達の姿勢できちんと伝えなければならないはずです。

それゆえに、^{まごころ}真心が外にあらわれた態度は、敬意を表す動作として、お辞儀や挨拶、自分が相手になにかの意見や、考えを伝えようとするときの挙動が「礼」です。

礼儀、礼節をもって接すれば、相手に伝わりますよ、ということです。ただ自分がいいたいことだけを主張しても、相手には伝わりませんよ。という意味です。

相手に伝わらなければ、伝達したことになりませんし、せつかく伝達本能をもっている、意味がないはず。ゆえに、伝えるときには、「礼」を欠いては行けません。ということです。

お辞儀もきちんとして、挨拶もきちんとして、礼儀礼節を忘れずに行うことです。

「親しきなかにも礼儀あり」といいますように、親しい相手にも、礼をもって接すれば、その所作は必ず伝わりしよきますよ。そういう意味が含まれているのです。

信——魅力本能の正しい発揮です。

魅力本能は〔人から好かれない〕とか〔良く思われたい〕という本能ですが、本当に好かれたり、愛されたりするためには、信用される人間になることが一番でしょう。

うわべだけを着飾って、うわべだけ親切にしてみても、信じてもらえなければ、魅力にはならないはず。まわりの人の気持ちを引き付けることはできません。

それゆえに、魅力を正しく発揮するには「信」が必要です。他人を欺くことのない、人としての「信」を心奥しんおうに構築することは、魅力本能の中枢に必要です。

義——攻撃本能の正しい発揮の仕方です。

攻撃本能というのは、相手をやっつけようとする本能なのですが、誰でも彼でも攻撃していいということではありません。

人間のもつ攻撃本能の正しい出し方は、「正義の味方」とかいたりしますが、正義は道義にかなっている正しいことを意味します。

ともに「義」から生れた言葉であり、〔正義〕と〔義〕はおなじ意味といえます。その基^{もと}は「義」なのです。

参考：道義（人として行うべき正しい道）

攻撃本能は正しく発揮しないと、かえって他人^{ひと}に迷惑かけたり、相手を傷つけたりすることに繋がりがねません。正しい攻撃を発揮するときには、攻撃しなければいけないのです。

攻撃してはいけないものに対しては、攻撃をしてはいけないわけです。

正しい筋道をしっかりと見極めることが肝要です。

智——^ち智は習得本能の正しい発揮です。

習得本能は知識を習得しようとする本能ですが、なんのために知識を習得するのか、なんのために知恵を高めようとするのかといえ、それは正しい判断をするためといえます。

人によっては、せつかく頭がいいのに、悪知恵として頭の良さをつかっている。そういう人も世の中にいるでしょうし、ドロボーなんかそうですね。

どうやってこれを盗もうか、ドロボーに入ろうか、すごく工夫して知恵をつかっているといえます。逮捕されて収監されたら時間があります。そこで、どうして失敗したのかと、反省しきりにするわけです〔あそこがいけなかった〕〔ここがいけなかった〕、こうすれば逮捕されないだろう——と改良して、ドロボーとしての性能を高める悪知恵を稼働させます。

その知恵を正しいことにつかえば、世の中で役に立つ人になれるのでは——とも考えられますが、その人物が育った環境が大きく影響します。一概にはいえないのです。

「どんなに知識を習得しても、どんなに知恵を働かせても、それを正しい判断につかわなければ、『智』の価値はないのですよ」そういう意味なのです。

⇒ 『五行恩徳』 ごぎょうおんとく

いいかえれば、「五行」における『恩』『徳』の結びつきです。

「五徳 ごとく」という言葉があります。

五徳〔福^{ふく} 寿^{じゅ} 禄^{ろく} 官^{かん} 印^{いん}〕五つの『徳』をいいます。

通常〔福 寿 禄 官 印〕の五つを総称して「五徳 ごとく」といいます。

五徳の順番は〔福 寿 禄 官 印〕です。

五行（木 火 土 金 水）の順番とおなじです。

五行でいえば——（福は木性）（寿は火性）（禄は土性）

（官は金性）（印は水性）になります。五行の順番です。

「五常^{ごじょう}」も「五徳^{ごとく}」も木火土金水の順番に並んでいます。

「五行恩徳」は、もう少し先にゆきますと、実際の占いにつかっていくようになります。

五徳〔福 寿 禄 官 印〕で運勢を観たときに、この人の

〔福〕の部分の運勢はどうだとか、〔寿〕の運勢はどうなのか、〔禄〕の運勢はどうなっているのか、この人の〔官〕はどうなのか、とかを観るわけです。

今年は〔印〕の運勢がよくない年ですね——そういった占いにつながって行くようになります。

⇒ 「五徳」の要点を説明しておきましょう。

五徳 **五行**

福 = (木) 自分自身の満足、幸福 (幸せ)

寿 = (火) 健康のこと、寿命

禄 = (土) お金、財 (借金も入る)、不動産など

官 = (金) 名誉、名声

印 = (水) 知恵 (人格を含んだ意味)

福——^{ふく}福は本人が感じる幸福感のことをさします。

本人が感じる幸せ、あるいは幸福感です。

世の中には、財産があるけれども生きていて幸せを感じない。そういう人もいるはずです。

あるいは、貧乏で病気して、病院のベッドで寝ていても、自分は幸せだ、そのように思える人もいるはずです。

貧乏で、病気で寝たきりだけど、まわりにいい人がたくさんいて、あるいは自分の家族も、自分のことをとても大切にしてくれるし、いつもお見舞いに来てくれるし、自分は幸せ者だ……そう思っている人も、いらっしやるはずです。

この〔福〕について、算命学では実際に占うことができます。

今年は、福の運勢がいい年だとか、悪い年だとか……。

この宿命の人は、福の運勢を取りにくい人だとか……。

この宿命の人は、福の運勢を取りやすい人だとか……。

そのような観方もできます。

寿——^{じゅ}寿と書いてありますように、寿命とか健康のことです。

これも、ほかの運勢とは考え方が別のものと、まずは考えて占います。

福の運勢が悪くても、寿の運勢はよいです。そういう人もいるわけです。

生きていて「なんて不幸な人生なんだ」と思っている人も体だけは元気だ。という人もいるわけです。

それは別々に占ってゆくようになります。

禄——^{ろく}禄は財とかお金のことです。

五徳〔福 寿 禄 官 印〕のいずれもそうなのですが——
〔たとえば〕〔禄〕の財運を占うという学びが、そのうちに出てきます。

占うときには、その人の宿命を出して観ていきますが、その宿命のなかに、その人の〔禄〕になる部分はここに
あります。という〔禄〕を見つける技法があります。

この人の〔福〕はここにありますか、あなたの〔寿〕」
はこれですか、〔官〕はこれですよとか——いろいろあ
るわけですが、まずは五徳〔福寿禄官印〕を宿命のなかで
探し出し、そこに^{しょうてん}焦点を絞って、今年の「禄」の運勢はど
うなっているとか、今年の健康運はどうだとか、今年の
〔福〕の部分はどうなのか、そのように占いをしてゆく
ようになります。

官——^{かん}官は名誉・名声です。

〔たとえば〕「会社で出世できるでしょうか？」と、占い
で訊かれることもあります。

そういうときは、まずは、その人の宿命のなかで「官」

を探して、そこに焦点を当てて占いをしていくようになります。

「出世できるでしょうか……？」と訊かれたときに……かなり出世できますけど、そのかわり財運は駄目ですよとか、出世することで健康運は下がりますよとか、そのような答えになるときもあるわけです。

つまり、「出世する」ということに「財運」が結びつくとは限らないのです。

出世はしないけど、財運だけ上がる人もいるわけです。

印——印は知恵のことです。

知恵も運勢として、占いをしていくようになります。

今年は知恵の運勢がいい年だとか、悪い年だとか、この宿命は知恵の運勢がいい宿命だとか、悪い宿命だとか、そういった観方にもなっていきます。

ちなみに、俺俺詐欺おれおれさぎというのは、〔禄（お金）〕の問題ではなくて、〔印〕の問題なのです。

「私、知恵はどうでもいい、禄のほうが大事」そのようにおっしゃる方もいます。お考え方は自由ですけど——五つの徳の価値というのは、五つともおなじ価値です。

つまり、〔財運はいいけど〕〔知恵の運が悪い〕そういう宿命もあるわけです。

❖ 財運はよいのですが、知恵の運は悪いという人は、財がいいので、お金は出来るのですが、知恵がダメになっているわけです。せっかくあるお金を、自分の人生を曲げてしまうほうへ、費やして行くようになってしまう。ということもあります。

❖ お金が出来たからということで、〔たとえば〕浮気して、家庭をダメにしたとか、そういう人もいます。

お金が増えたので、覚醒剤を試したところ、覚醒剤中毒になってしまった。という人も世の中にいます。

お金があっても——そのお金をどのようにつかうのかです。自分のプラスになることにつかうのか、マイナスになるほうにつかうのか、経済的に困っている人を支えるためにつかうのか、それは「印」の運勢が決めると考えてください。五徳の五つはすべておなじ価値なのです。

算命学に「五徳」という考え方がある。そのように思っておいていただければよろしいです。

五徳〔福祿寿官印〕については、あらためて授業に出てきます。

五音 ごおん

音にも木火土金水というのがあります。

^{ががく}雅楽には、いまでも五行の音があるそうです。

雅楽はもともと、この木火土金水の組み合わせで、音楽として成り立っているそうです。

五味 ごみ

五味は〔酸・苦・甘・辛・鹹(かん)〕です。

これも〔すっぱい〕〔にがい〕〔あまい〕〔からい〕〔しおからい〕の五つですけど、これも木火土金水の順番に並んでいます。

〔酸のすっぱいが木性〕〔苦の苦いが火性〕〔甘の甘いが土性〕

〔辛の辛いが金性〕〔鹹(かん)の塩からいが水性〕です。

これもちらっと前に出てきたことがあると思いますが、どんな食べ物でも、この五つ以外の味の食べ物というのはいないはずですよ。

すっぱい、にがい、あまい、からい、塩からい、この五つの味を混ぜ合わせれば、甘酸っぱいとか、甘辛いとか、甘くてしょっぱいとか、どんな味でも作り出せるわけです。

昔の中国は、五味についてつぎのように考えていました。

それは五つの味の食べ物を、まんべんなく^と摂ることで、栄養のバランスが取れる。という意味合いがあります。現代だと、ビタミンAはどの食品に含まれている、ビタミンCは1日何ミリグラム摂らなくてはいけないとか、カルシウムはどのくらい必要だとか、そのような言い方をしますけど……考えてみれば、いろんな味の食べ物を、まんべんなく食べていけば、それで栄養のバランスが取れるはずです。

そして、^{かたよ}偏った味の食べ物ばかりを食べていると病気になると昔の中国では考えていたようです。

甘いものが好きで甘いものばかり食べてれば、必ず病気になりますし、辛いものが好きで辛いものばかり食べてれば、それも病気になります。

昔から「^{いしょくどうげん}医食同源」という考え方が中国にはありまして味が偏ると病気の原因になると考えていたわけです。

酸っぱいものは嫌い、といい、酸っぱいものはまったく食べません。という食生活を重ねれば、栄養のなにかが欠けて病気に繋がっていくでしょう。

五穀 ごこく

黍 (しょ) ⇒ きび

稷 (しょく) ⇒ こうりゃん (もろこしの一種)

稗 (はい) ⇒ ひえ

秫 (じゅち) ⇒ もちあわ

粟 (ぞく) ⇒ あわ

現代では (米・麦・あわ・豆・きび) でしょうか……。

昔から「^{ごこくほうじょう}五穀豊穰」といいますが、なにをもって^{ごこく}五穀としたのか、これは時代によって変化したそうです。

ただ、昔からなぜか、代表的な穀物が五種類あったそうです。

それを総称して五穀といているのです。

五虫 ごちゅう

昔の中国では、生物を五種類に分類して考えていたわけ
です。

鱗虫（りんちゅう）⇒ ^{うろこ}鱗のある動物で魚類。その代表は龍。

羽虫（うちゅう）⇒ 羽のある動物で鳥類。代表が^{ほうおう}鳳凰。

裸虫（らちゅう）⇒ 鱗も羽もない動物で人間。特に聖人を指す。

毛虫（もうちゅう）⇒ 毛のある動物で特に哺乳類。

犬・猫・虎・狼などですが、麒麟（きりん）を代表としている。

介虫（かいちゅう）⇒ 固い殻をかぶった動物。長命な亀が代表。

人間は裸虫に分類されるわけです。

五合 ごごう

五つの合う、と書いて五合と読みます。

筋・血・肉・脈・骨

五合は人間の肉体を、筋の部分、血の部分、肉の部分、脈の部分、骨の部分の総称です。

筋・血・肉・脈・骨、このように五つに分類して、人間の肉体を五行配当したものです。昔から、五体満足とといいますように、五体といういい方をしますが、なにをもって五体というのか——これにはいくつも説と、考え方があつたそうです。

まず胴体は、胴体に両手と両足で五体というふうな見方もあれば、「五合」をもって五体と呼ぶ場合もありますし、つぎに出てくる五臓、その五臓をもって五体とする場合もあつて、五体というのは、その総称だという意味なのです。

つまり、五体は、筋・血・肉・脈・骨、この五つを五体というのではなくて、分類の方法が何種類かありまして、それをまとめて五体という言い方をするわけです。

五合については、また出てきますので、そのときに合せてご説明します。

五常現 ごじょうげん

東西南北に中央を加えた五つの方向「五常現」があり、そこには、方角を象徴する架空の動物を配しました。

中国の昔の遺跡とか、日本でも高松塚古墳に、東西南北に中央をくわえた方角に、この動物が描かれているのが発見されています。かんたんに列記します。

東 — 青竜 (せいりゅう) ⇒ りゅう 龍

東が青竜、これは龍です。龍は架空の動物です。

南 — 朱雀 (すざく・すじゃく) ⇒ ほうおう 鳳凰

南は朱雀、朱雀は鳳凰のことです。

朱雀は、孔雀など、羽の大きい鳥をモデルに考えた架空の動物といわれています。

日本でも南の方には朱雀という地名がありますし、京都でも南の方には〔朱雀通り〕があります。

日本でも、昔から「五常現」の呼び方はつかわれていました。

中央 — 𪚗蛇 (とうだ) ⇒ 色々な動物の混合体

𪚗蛇というのは、いろんな動物が混ざっています。

はっきりした説は、^{いま}現在でも確定してないそうですが、胴体がライオン、しっぽが蛇、足がこうで、首が何だとか、手は何だとか、というふうに混ざった動物が𪚗蛇です。

西 — 白虎 (びゃっこ) ⇒ 虎

これはトラです。

白いトラで、トラをモデルに考えた架空の動物です。

北 — 玄武 (げんぶ) ⇒ 亀

玄武というのは亀、亀をモデルに考えた架空の動物です。

算命学では、五常現を占いの呼び名としてつかいます。

運勢を五つの型に分類したりするときに、青竜型の運勢だとか、白虎型の運勢だとか、𪚗蛇型の宿命だとか——そのような言い方でつかわれることは度々あります。

五臓 ごぞう

かんぞう しんぞう ひぞう はいぞう じんぞう
肝臓・心臓・脾臓・肺臓・腎臓——これら五つの臓器は人間が産まれてから死ぬまで、一刻の休みもなく働き続ける臓器です。

肝臓が動かなくなったらすぐ死にます。

心臓が動かなくなっても死にます。

脾臓や肺臓や腎臓が動かなくなっても死にます。

「^{ごぞうろっぷ}五臓六腑」という言い方しますが、五臓と六腑では、人間と死の関わりにおいて、まったく異なります。

〔たとえば〕胃とか、腸とか、膀胱とか、ほかにも臓器は色々ありますが、1ヶ月断食しても死にませんよね。胃が本来の消化活動を1ヶ月やらなくても死にません。点滴とかで、栄養分を補給すれば、胃をつかわなくても生きていきます。

ところが、五臓だけは無くなったら人間は死にますし、その本来の働きを、五臓のうち1つでも止めてしまえば生命を持続することはできません。

それゆえ、「人間には五つだけ特別重要な臓器がある」ということは、昔から知られていまして、その五つを五臓と名付けたのです。

算命学は、五行（木火土金水）に五臓に当て嵌^はめまして、欠点を見せる臓器を探することができます。

これは身体の健康を占うときの基本的な観方です。

宿命を出しましたら、その宿命のなかで最も多い五行のところに、弱点が出やすいと考えてください。

五臓 ⇒ 宿命に最も多い五行に欠点が出やすい

木性が多い人 ⇒ 肝臓に欠点が出やすい

火性が多い人 ⇒ 心臓に欠点が出やすい

土性が多い人 ⇒ 脾臓に欠点が出やすい

金性が多い人 ⇒ 肺臓に欠点が出やすい

水性が多い人 ⇒ 腎臓に欠点が出やすい

肝臓は木性、心臓は火性、脾臓^{ひぞう}は土性、肺臓は金性で、腎臓は水性です。

このように木火土金水が決まっているわけです。

宿命を出しましたら、その宿命のなかで最も多い五行のところに、弱^{じゃっか}化が出やすいと考えてください。

〔たとえば〕まずは宿命を出して、その宿命に（木性）がたくさんある。となれば〔肝臓に欠点が出やすい〕と、占ってよいのです。

【五行諸類考】の表を見ると、五行で木性は肝臓になっています。

宿命に火性がたくさんある、火がたくさんある宿命の人は心臓に問題が出やすい宿命です。となりますし、土性が多いと脾臓に、金性が多いと肺に、水が多いと腎臓に欠点が出やすい。そのように占います。

⇒ ただし、詳しく観るときには、これだけでは不十分なのですが、このことはまず基本です。

どうしてかといいますと、「陽占」が終わって、「陰占」の勉強に入ると解るようになりますけど……、

〔たとえば〕宿命に木性がたくさんあるとします。

木性が多ければよい、というものではなくて、たくさんあるものは、バランスが崩れていくと考えるのです。

宿命に火がたくさんあって、火性が多いということは、火が強すぎますから、そこがバランスを崩している。と考えるわけです。

宿命のなかで、一番多い五行——それが金性だとすれば、そこは一番バランスが、崩れやすいところでは。

それゆえに、欠点・弱化を負いやすく、そこを患^{わずら}いやすいといえます。

この「五臓」の話は、つぎの「五勞」の話と結びついています。

五勞 ごろう

ぎょう し ざ が りつ
行・視・座・臥・立 —— この五つです。

五つの労働の勞と書いて「五勞」と読みます。

行(木性)

働き過ぎると（過勞が多くなり過ぎると）筋を痛めて肝臓を患う

行は木性です。働きすぎると、筋を傷めて肝臓を患う。

すじ きんにく けん
筋は筋肉（腱）を意味してよいとおもいます。

つまりは、働きすぎると筋に疲れがたまって、筋を傷め、

結果的に肝臓を患いますよ。という意味合いです。

五合と結びついているわけです。

「五合」で筋は木性です。「五臓」肝臓は木性です。

その二つは緊密な関係があり、働きすぎて、疲れが取れないうちに、また働いたりして、そういう生活を続けて行くと、ドンドン身体の中にさまざまな毒素（悪い物質）が滞留して、結果的に肝臓を患うようになります。と、いうことです。一般論としてどの人にも言えることです。

肝臓は五行で木性ですから、特に宿命に木性が多い人は気をつけなさい。禍を招きますよとっています。

視（火性）目を酷使すると血行が悪くなり、心臓を患う。

目をつかいすぎると血行が悪くなって、結果的に心臓を患います。という意味です。

目を酷使すると、肩が凝るのではありませんか。

“肩こり”は、血液の循環が悪くなった状態ですから、それがずっと続くと心臓に負担がかかり、結果的に心臓を患うようになっていきます。という意味です。

昔から中国ではこのように考えていまして、東洋医学のもとになっている考え方でもあるようです。

算命学では、宿命と併せ観て、火性が宿命に多い人は、特に心臓に気をつけなさい。というふうに考えています。

坐（土性） 座ってばかりいると、肉を傷めて脾臓を患う

座ってばかりいると、肉が悪くなって脾臓を患います。

という意味ですけど、肉を傷める、肉が悪くなる病気の典型はなんでしょう……？

肉の病気で典型的なのは、退化的疾患のガンです。

土性が宿命に多い人は、特にここに気をつけなさい。ということになります。

宿命に土性がたくさんある人はガン体質です。

🔍 【五行諸類考】の表を見てください。03頁です。

五味は〔酸・苦・甘・辛・鹹（かん）〕です。酸っぱい、にがい、甘い、辛い、塩からい。五行の順番に並んでいます。

五味のところ（15頁）では、一つの味を食べ過ぎると、体によくないので、まんべんなくさまざま味を食べるとよいです。といったわけですけど、これは「五味」と連関しています。五行で土性は『甘』なのです。

それゆえに、宿命に土性が多い人は、毎日座って、甘い

ものばかりを食べていると……ガンを患いますよ。と、つなげて考えるのです。

そうしますと、土性が宿命に多い人は、毎日、座りっぱなしになることを、気をつけることです。

そして、甘いものの摂り過ぎに気をつけることです。となりますよね。

座って、甘いものばかり食べていると、ガンになりますよ。と、つなげて考えるわけです。

ほかのところも、五味と結びつけてよいのです。

ちなみに、お酒は、酸っぱい、苦い、甘い、辛い、塩からい、五つのなかでは、どれに相当するのでしょうか……？

ビールは苦味がありますよね。

ウイスキーも苦いですよね。

甘いお酒ってありますけど、甘いお酒は、お酒のなかに糖分が含まれているから、甘いだけであって、お酒そのものの味は、まったく甘くはないはずですよ。

❖ お酒は“苦い”に分類します。

ブランディーとかワインには、糖分が含まれているので、ちょっと甘みがありますよね。

日本酒も糖分が含まれているので、ちょっと甘みがあります。それは糖分の味であってお酒の味ではないのです。お酒そのものは苦いのです。

そして、お酒そのものは燃える質を備えています。

その意味もあって、火性に分類されます。

五味だと苦いに分類されて、五行だと火性に分類されます

それゆえに、宿命に火性が多い人は、目を酷使すると、血行が悪くなり心臓を患います。と書きましたけど——宿命に火性が多い人は、お酒の飲みすぎも要注意です。

かせいたか
火性多過の人は、特に注意しなさいということです。

が
臥（金性）横たわってばかりいると、気力を無くして肺を患う金性の多い人は要注意です。

金性の多い人は、いつもゴロゴロとねっころがってばかりいると、気力を失って行き、肺の病気にかかります。とっています。

立^{りっ}（水性）立ってばかりいると骨が弱くなり、腎臓を患う
立ち仕事——いろいろありますが、一日中・立ち仕事をする状態を指しますので、歩くのとは違います。

営業マンなどで、一日中歩きっぱなしという人もいますよね。歩きまわっているような仕事は、木性の『行』に入ります。つまり、働きすぎのほうに入ります。

最後の「立^{りっ}」は立ち仕事をさします。

ただ立っているだけの状態が「立」です。

五味では、水性の塩からい。

それゆえに、宿命に水性がたくさんあって、立ち仕事に従事して、塩分を取りすぎると腎臓病を患います。

⇒ それでは、宿命で観ていきましょう。

宿命を五行（木火土金水）に変換するとよいですね。

十干と十二支が、頭に入っていれば、宿命を見ただけで、この人はどの五行が多いと解るでしょう。

△ 4人の宿命をノートに書いて、干支を五行に直してください。

☞ マイケル・ジャクソンの宿命を五行になおします。

＊ マイケル・ジャクソン 1958-8-29 [2009-6-25 没]

					4 辛酉
	戊 庚 戊		貫索星	天庫星	14 壬戌
申	寅 申 戌	車騎星	鳳閣星	貫索星	24 癸亥
酉	戊 戊 辛	天貴星	鳳閣星	天胡星	34 甲子
	丙 壬 丁				44 乙丑
	甲 庚 戊				54 丙丑
	土 金 土				
申	木 金 土				
酉					

(土性が3つ) (金性が2つ) (木性が1つ) あります。

年干の戊は土性です。年支の戌は土性です。

月干の庚は金性です。月支の申は金性です。

日干の戊は土性です。日支の寅は木性です。

このように、干支を五行になおします。

そうすることで、干支の観方が上達します。お願いします。

⇒ そうしますと、31頁からの4人の宿命を見てください。

＊ いかりや長介さん

「戊土」(戌土)(未土)と、土性が3つあります。

宿命は、年干と年支、月干と月支、日干と日支と、全部で6つしか干支の場所はないわけです。

6つのなかに3つおなじものがありますから、宿命の半分を占めています。

通常、おなじ五行が3つあると、そこは要注意だというふうに考えています。

いかりや長介さん、「庚金」「辛金」(申金)と金性も3つありますので、こちらも要注意です。

金性は、五臓で肺です。

土性は、ガンです。

宿命を見たときに、土性も3つ、金性も3つあるわけですから、こういう宿命の人が、ガン、もしくは肺の病気になると、かなり危険だと考えます。

ですから、そのような疾患に罹る前しっかんからかか気をつけたほうがよいのです。

食べ物にしても、生き方にしても、普段の生活もです。

死因はリンパ・ガンと報じられました。リンパ腫は転移

するガンです。この宿命から考えて……おそらく、肺臓にも転移していたものと考えられます。

＊ 小淵恵三さん

脳梗塞で亡くなりましたけど、五行でいえば火性が多いです。「丙火」「丁火」（午火）と、火が三つあります。小淵さんの直接の死因は脳梗塞ですが、血液循環が悪いことで起きる病気です。

直接の死因は脳梗塞ですが、その前の話として——この宿命からして、心臓もかなり弱っていたと考えます。

心臓も弱って、血液の循環が悪くなり、それが脳梗塞を引き起こした要因だと考えられます。

＊ 小沢一郎さん

心臓疾患で倒れたことがあります。

宿命に「丁火」（巳火）（午火）と、火が3つあります。

小沢さんは、お酒を控えているそうですが、若いときはかなり飲んでいました。

目の酷使も注意です。

＊ 橋本龍太郎さん

天干は「丁火」「丁火」「丁火」と、全部丁火ですから、それに日支（巳火）を加えると、火が4つあります。

このような宿命は、なんととっても心臓です。

火性は〔心臓〕そして〔血液〕です。

心臓病は心臓そのものですが、血液の循環が悪くなれば心臓に負担がかかります。

橋本龍太郎さんは酒豪だったそうです。

火性がたくさんある人が、お酒をたくさん飲んでいたら心臓病で倒れて当たり前といえます。

火性はお酒です。

亡くなったときの、医師の発表では、腸に血液がいなくなっていて、腸が壊死したのが原因だそうですね。

宿命に火性が多い人が、「一度、心臓で倒れた」ということであれば、算命学では基本的に治らないと考えていますので、一生の持病になります。

それゆえに、^{りかん}罹患しないように、気をつけないといけませんね。

☞ 病気の観方は、誤解しやすいところがあります。

〔その人が長生きするのか〕〔早死にするのか〕そのことは全く別の話なのです。

「心臓に欠点が出やすいですよ」という意味であって、火性がたくさんあるから、早死にするということではありません。まったく違います。

長生きするかも知れないのです。

長生きなのかどうかは、この観方では判りませんので、別の技法で占っていきます。

土性が3つ以上あれば、ガン体質と占いますけど、だからといって、早死にするのとは違います。

百何歳になって、ガンになるかも知れませんが、若くしてガンになる場合もあるわけです。

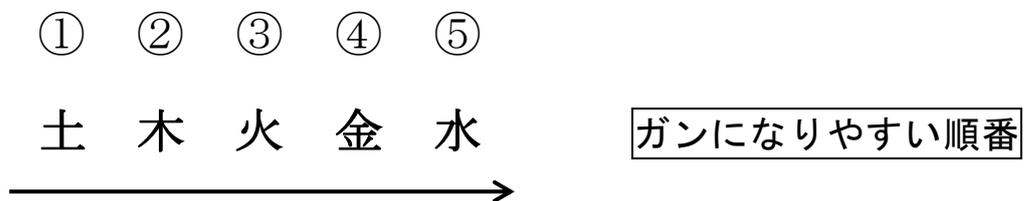
短命なのか、長命なのか、という話は別です。

皆さまも、ご自分の宿命で、どこに気をつけるべきなのかを見て、頭に入れておくとよいでしょう。

……目のつかい過ぎに気をつけようとか、座りっぱなしで甘いものを食べているといけないとか、それだけでも予防につながります。

⇒【五行諸類考】で、一つ付け加えることがあります。

宿命に土性がたくさんありますと、ガンになりやすいですよ。ということでしたが、ガンについては、ガンになりやすい順番というのがあります。



①～⑤の順番ですが……五行で考えて、土性が多ければ、このなかでは、一番ガンになりやすいわけですよ。

木性が多い人が、つぎになりやすいという意味です。

火性が多い人が、つぎになりやすいです。

金性が多い人がつぎです。

水性が多いと、金性のつぎです。という意味です。

逆にいえば——水性・金性はなりにくいと考えてよいわけですよ。

【たとえば】命式を適当につくりますと ➡

⇒ ①さんの命式ということで書きました。

乙 丙 戊

巳 戌 寅

年干支は ⇒ 戊土の寅木（ぼどのとらぼく）、

月干支は ⇒ 丙火の戌土（へいかのいぬど）

日干支は ⇒ 乙木の巳火（おつぼくのみび）

声に出して読んでくださいね。

五行になおしますと――、

木 火 土

火 土 木

このような五行になります。

この人の五行の数は：

（木性が2つ）（火性も2つ）（土性も2つ）です。

木 - 2

火 - 2

土 - 2

㊤さんの命式は、木性と火性と土性は2つずつなので、特に、どれが多いとか、決められません。

こういうときは、先ほどの **ガンになりやすい順番** に当てはめてみます。

① ② ③ ④ ⑤
土 木 火 金 水 **ガンになりやすい順番**
—————→

㊤さんの命式の場合は、土性2個、木性2個、火性2個があります。

② ② ②
土 木 火 金 水
—————→

なりやすい順番の上位のほうに固まっていますよね。

このように、上のほうに固まっていたら〔ガンになりやすいほうの宿命〕だと考えてよいのです。

㊤さんの命式のように、五行がバラバラで、特にどれが多いとかが無い場合は、数をそのまま **ガンになりやすい順番** に当てはめてみてください。

そうしますと、上位のほうが多ければ罹患しやすいし、
下位のほうが多ければ罹患しにくい。と考えます。

ただしです……。

かりに、罹患しやすいとなってしまっても、さきほども
いいましたように、〔早死にする〕〔早死にしない〕 とか
の問題とは、全く別のことです。違います。

それはまた、別の観方で考えなくてはいけませんので、
〔寿命の長い〕 とか〔寿命の短い〕 には、直接的に関係
ないのです。

【初年】 26回目【五行諸類考】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 27回目【流入論・発揮論】